



THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO, SUNRISE
T O S Y ' S
東京サンライズ・ワイズメンズクラブ

設立 1989年2月18日
チャーター認証日 1989年5月 2日
チャーターナイト 1989年5月28日

TOKYO YMCA YAMATE CENTRE
2-18-12, NISIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO
PHONE 03-3202-0321

第一例会：第2木曜日 午後5：00
(但し、12月・4月は山中湖センターで土日)
第二例会：翌々週火曜日 午後5：00

2026年2月号ブリテン 第420号

会長 小山久恵
副会長 大谷博愛
書記 御園生好子
会計 大森裕子
直前会長 御園生好子
担当主事 鳩山哲郎

2025-2026 年度主題(Thema)

Our Motto 国際標語
国際会長 エドワード・オン
アジア太平洋会長 田上正
東日本区理事 山下真
あずさ部部長 山口直樹
サンライズ会長 小山久恵

IBC：台北ユニオン DBC：東広島・京都プリンス
「信念、愛、行動」
「共に、より強く」 (シンガポール)
「信念と愛を持って行動しよう」 (熊本)
「ワイズのらしさ再発見」 (十勝)
「垣根を低くし、活発な活動を」 (武蔵野多摩)
「例会の出席を第一としよう」

2月第一例会のお知らせ

2月は山手学舎の学生との交流会を第一例会とします。

日時 2月12日(木) 17:00～

2月以降の予告

2月24日(火) 第二例会

2月のハッピーバースデー 1月例会出席者
松本ふささん 2月24日 9名
(出席率 69%)

2026年在京ワイズ新年会(兼1月第一例会)
報告

1月10日13時より東陽町コミュニティーセンターにおいて在京ワイズ新年会が行われました。第1部のオープニングセレモニーはYMCA 高等学院トーンチャイム部による演奏で、心地よい音色に包まれて会は始まりました。今年の新年会は4部構成で、2部の開会式、4部の懇親会は例年と変わりありませんでしたが、新たに企画された3部は目玉だったと言えるでしょう。

「ユースと話す、ワイズと語る」と題した3部はグループディスカッションの形式で行われました。昨年サンライズの10月例会でも卓話をしてくれたボランティアリーダーの丸山啓太さんからの申し出で、ワイズとユースの関係強化をワイズはどう考えているのかをユースの側が知りたいという企画でした。

全体を4つのグループに分け1グループ20人くらいで、ワイズとユースが共同できるテーマやイベントは何かを各自自由に出し合いました。最後に各グループの代表がグループ内で話されたことをまとめて全員の前で発表し、他グループの展開も全員が共有しました。



これまでもワイズではユースとの関係の重要性は幾度となく語られてきましたが、総論の繰り返しに留まることなく、この企画は具体的に何ができるかを考える機会となりました。さらに、ユース

を育てるという上から目線ではなく、ワイズとユースが
お互いに提供できるリソースを出し合って共に行動する
という視点に気づかせてくれた点で意義は大きかったと
思います。

従来からサンライズは在京新年会を1月第一例会とし
てきました。サンライズからの出席者は小山会長、泉さ
ん、菰渕さん、長津さん、御園生さん、大谷の6名でし
た。

1月第2例会

小山久恵

1月20日火曜に山手センターで行いました。各自持ち
寄った切手を、周りを残して切っていく作業です。大型
の記念切手に限って欠陥となり、もったいなかったで
す。あーだこーだと言いながら手は休めず、かなりの量
になりました。

切手切りの後、2月12日に行う山手学舎での鍋パーテ
ィについて話しあいました。準備の為、メンバーは16
時集合、買い物の分担を確認しました。大勢の方々に出席
していただく為、色々の場でアピールをします。

東京YMCA ソシアスフォーラム 2025

御園生好子

日時：2026年1月31日(土)

会場：東京山手センターに於いて

I. 開会

開会挨拶 会員部運営委員長 蒔田敏雄氏

II. TOKYOYMCA VISION150 の今

中期計画推進委員長 上田晶平氏

ユースの輝く場を作る 新しい形の基点を作る 多様性
のある事 環境守る 組織を強くする等 (YMCA便り
等参照してください)

III・基調講演

「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」が問うこと

社会福祉法人賛育会赤ちゃんのいのち
を守るプロジェクト事務局長 大江浩氏

子供たちに相応しい世界として様々な国の現実等。

私の心に残ったのは、「体は食べ物で作られる」、「未来は
働いたことで作られる」、「心は開かれた言葉である」の

3点。

IV. 分かち合い

基調講演の感想や気づきを小グループで分かち合い。

V. レクリエーション

ユースのリーダー達の自己紹介から始まり、ゲーム等。

閉会

閉会挨拶 東京YMCA 総主事 星野太郎氏



ひよこのつぶやき vol:272

「瓦礫・命・感謝－次の未来へ－」

石巻広域クラブ 関川祐一郎

石巻広域クラブの関川祐一郎と申します。私は2025年
3月まで日本基督教団石巻山城町教会の牧師を務めてお
りました。現在は、日本基督教団井草教会の牧師をして
います。

2011年3月11日に東京にある神学校を卒業し、その
年の4月より石巻山城町教会に赴任しました。石巻に赴
任した当初、瓦礫の山や津波に巻き上げられて堆積した
ヘドロの匂いは、今も忘れることができません。あれか
ら14年が経ち、3人の息子たちは石巻で生まれ、石巻が
故郷となりました。また私にとっても、石巻は愛すべき
第二の故郷です。

石巻広域クラブは2016年にチャーターし、今年で10
周年を迎える若いクラブです。私もチャーターメンバ
ーとして加えていただき、皆さんから多くのことを教え
ていただきながら、今日まで活動させていただいています。

すでにご案内のように、第 29 回東日本区大会が 6 月 6 日(土)に石巻にて開催されます。間もなく東日本大震災から 15 年を迎えます。クラブチャーター 10 周年と震災から 15 年。この特別な年に、東日本区大会を石巻にて開催できますことを感謝しています。

今年の東日本区大会のテーマは「瓦礫・命・感謝ー次の未来へー」です。石巻は東日本大震災で 3000 人を超える方々が犠牲となった最大の被災地です。津波によって、あらゆるものが流され、歴史ある石巻の町は瓦礫に埋め尽くされました。また、多くの命が失われた一方、守られた命もあります。震災を機に全世界から、たくさんの支援と祈りが石巻に届きました。震災から 15 年という時を経て、改めて命あることに感謝しつつ、支援への感謝を胸に抱きながら、この思いを次の未来へとつないでいきたいと願っています。

ぜひ、震災から 15 年を経た石巻の今をご覧ください。そして石巻の食を存分に味わっていただきながら、東日本区大会に御参加いただければ幸いです。皆様の御参加を心より、お待ち申し上げます。

山中湖センターの様子

山中湖センター 荒木 暁

2026 年を迎え、山中湖は一段と冷え込みを増しています。現在キャンプ場はクローズ期間中のため、スタッフ一同で場内の大掃除を行っています。

毎朝の気温はマイナス 10℃ほどまで下がり、山中湖には氷が張るようになってきました。澄んだ空気と凍てつく湖面は、山中湖村ならではの冬の風景で、その美しさに心が惹かれます。冷たい空気の中で深呼吸をすると、気持ちまでリフレッシュされるようです。

一方で、気がかりなこともあります。夏以降、水不足が進み、現在は栈橋を設置している場所から約 10 メートルほど水位が下がっています。雨が少ないことや、昨年より気温がやや高いと感じる日があることなど、地球温暖化の影響ではないかと考えさせられます。

山中湖で自然に囲まれた生活をしているからこそ、こうした変化を身近に感じ、自然や地球のことを改めて考える必要があると感じています。これからも、日々の暮らしの中で自分たちにできる「自然にやさしい行動」を考え、少しずつでも実践していきたいと思います。



YMCA ニュース

都合によりお休みします。

編集後記

ブリテン 2 月号をお届けします。2026 年も一か月が過ぎました。私事ですが、1 月の終わりから 2 月の初めにかけて、ハワイに滞在していました。ハワイには妹が住んでいるため、毎年、この時期に訪れるのが恒例となりつつあります。今回はマウイ島にまで足を伸ばし、最高峰のハレアカラ山頂でのサンセットを鑑賞してきました。自然の美しさ、雄大さに圧倒されました。

なお、今回のひよこのつぶやきは石巻広域クラブの関川祐一郎さんに書いていただきました。関川さん、ありがとうございました。



ハレアカラ山頂からのサンセット